

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2891100063		
法人名	医療法人社団 甲有会		
事業所名	グループホーム アンジェリカ		
所在地	兵庫県宝塚市月見山2丁目2-39		
自己評価作成日	平成22年12月13日	評価結果市町村受理日	平成23年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102
訪問調査日	平成23年3月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所では、今までその方が行っていた趣味や特技、習慣を活かしてメリハリのある生活を送って頂ける様な環境整備に努めております。例えば、毎日の日課として掃除や調理を共に行ったり、外出して喫茶店での飲食や買物をしたり、集団で実施できる体操や昔なつかしの歌を合唱したりと小規模ならではの家庭的で柔軟な対応を実施しております。また、活動的な生活を行なう為の基盤として、健康状態を良好に保つという事を重要視しております。水分・食事・排泄・運動を明確な目標値を定めて実施する事で、脱水や低体力・便秘等の周辺症状の改善を図ります。  
また、自然環境に恵まれた立地で、リビングやベランダから樹木や河川が望めます。「今日は、向こうの山までよう見えるね」と、日々変化する自然の表情が利用者の方の大変良い刺激です。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市街が一望できる高台の近代的な施設は、利用者が集うリビングや居室からも季節の移ろいを感じられる。開設1年経過する中で管理者・職員は理念の浸透とサービスの向上に取り組んでいる。更に地域密着型としての役割を踏まえ、地域のケアマネジャーへの状況報告や地域の回覧を利用してグループホームのパンフレットを配布するなど積極的な地域交流に向け取り組んでいる。運営推進会議については2ヶ月に1回実施して、活動内容の報告、利用者の動向、事故報告、参加メンバーから適切な助言・要望を受け運営に活かしている。職員は、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続ける支援のために施設の目標としている「一日一回は外出する」を実践しており、利用者の希望により職員が計画を立てて外出を楽しめるようにしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是・経営理念・基本方針を毎日のショートミーティング時に唱和し、全体会議やカンファレンスの際も理念に基づいた取り組みが出来ているか否かを指針としている。	社是・経営理念に基づいて、ご利用者・家族の意思と権利の尊重・安心できる生活への貢献・その人らしい生活の自立への支援・高齢社会に対応するための社会資源の開発及び活用と提供、利用者様の個別性の重視等の基本方針を開設後1年以内に理念を浸透させるよう、毎日のミーティングで唱和することで浸透を図っている。	地域密着型サービスとしての役割を理解し、今後法人理念を元に、全職員で現状に即した理念の見直しを実施していくことが望ましい。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かける際はすれ違った方々に挨拶をする様に心がけている。地域の方々に施設の案内を配布したり、ふれあいサロンや行事への参加を行なっている。	地域のケアマネジャーには、グループホームの状況を報告し、地域の回覧を利用してグループホームのパンフレットを配布したり積極的な地域交流に向け取り組んでいる。また、地域で開催されているサロンに出向き、グループホームが開設したことを伝えたり、行事への参加案内を行いグループホームより地域と交流が持てるよう取り組んでいる。地域に介護サービスの事業所がないため、事業所ができて安心できると自治会より意見をもらっている。開設後間もないため地域の自治会への参加はできていない。	地域に配布できるグループホームの広報紙を定期的に発信し、地域の理解と交流を深めるような取り組みが望ましい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や近隣の自治体の方々の見学を受け入れ、その際に施設の方針やケアの重要点について説明を行なっている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方に施設の生活状況や運営体制について知って頂き、ご意見を頂きながら改善に努めている。地域のサロンへの参加は、参加者の方からのご意見で参加させて頂く流れとなった。	平成22年8月より開始し偶数月で実施している。家族・地域住民(民生委員)、近隣の特別養護老人ホームの施設長、介護保険課職員が構成要員になっている。会議では、活動内容を報告、利用者の動向、事故報告、参加メンバーから適切な助言・要望を受け運営に活かしている。開設後6カ月で自己評価を行い自己評価を会議で開示し参加メンバーからの意見を聴取するなど、会議で積極的に意見が出るように取り組んでいる。会議で出された意見でオートロックで閉じ込められた場合に対応がスムーズにできるようにインターホンを設置したり、入居者か面会者の区別がつかないとの意見から面会者名札を作成し面会者に使用してもらったりと、出された意見や要望を積極的に運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。持ち回りで家族の参加をお願いしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宝塚市介護保険課のご担当の方々には、運営上で不明な点や宝塚市としての考え方を聞く為に、連絡をとっており、運営推進会にも参加頂いている。	運営推進会議に市の介護保険課職員の方に参加してもらいグループホームの現状は理解してもらっている。認定申請や介護申請など直接介護保険課に出向き、事業所から積極的に介護保険課と連携を図るようにしている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と同じく、高齢者虐待の研修を実施し、具体的な行為とは何かについてを認識したり、健康状態を良好に保つ等のケアの質の向上が最終的には、拘束廃止に繋がる事を学ぶ機会を作っている。	高齢者虐待の研修に身体拘束を含めた研修を実施し身体拘束についての理解と知識を深めるように取り組み、理解と知識を深めケアの質の向上を図ることで、身体拘束をしないケアの実践が行われている。実際のケアの現場で起こる可能性のある内容を職員に提示し、検討を通してケアに実践できるようにしている。周囲は坂道で車の通りの多い道路の環境であるため玄関の施錠はおこなっている。各ユニットの玄関は、昼間は開錠しユニットの行き来ができるようにし、施錠による弊害が起こらないように工夫している。利用者が外へ出たい意向や希望が出ればできる限り時間を調整し外出できるように支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、高齢者虐待の研修を実施し、具体的な行為とは何かについてを認識したり、健康状態を良好に保つ等のケアの質の向上が最終的には、虐待廃止に繋がる事を学ぶ機会を作っている。	研修を実施し高齢者虐待の理解と知識を深めるように取り組み、ケアの質の向上を図ることで虐待防止の徹底を図るようにしている。日々のケアの中で発せられる何気ない言葉が虐待や身体拘束になっていないか振り返りを行い虐待防止に取り組んでいる。	
8		(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を高齢者虐待の研修の中に盛り込み、職員へ認識する機会を作った。また、契約内容に成年後見人の支援の項目を入れ、必要であれば話し合いを行なう環境を整備している。	成年後見制度についての研修も高齢者虐待の研修の中に盛り込み、理解と知識を深める取り組みを行っている。制度の必要性に応じて話し合いを行う用意はある。	今後も継続的に研修実施を行い、制度についての理解と知識を全職員で深める取り組みが望ましい。
9		(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族と入居契約の場を設け、入居契約書・重要事項説明書の内容を直接説明を行なっている。疑問や質問に対しては、随時お答している。	見学時にパンフレットを元に契約の内容について触れて説明を行っている。グループホームの方針や入居の基準について理解を得た上で、申込書の提出後、契約を管理者が行っている。契約時は、契約書・重要事項説明書の内容で特に契約解除の項目で退去についてや利用料金については、具体的な詳細な説明を入れわかりやすい言葉で説明し、十分な理解が得られるように取り組んでいる。開設後間もないため契約内容の変更はないが、契約内容の変更になった部分のみを書面化し同意をえるようにする用意がある。	契約時に特に説明した内容など記録として残すと共に、契約での相互の理解が十分に行えるような取り組みが望ましい。
10		(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見欄を設けたり、来所時には直接お話して、関係性を築きつつ、気になる点がないかどうかを尋ねている。	利用者の状態に変化があれば電話連絡を密にとり、家族に意見を聴取するようにしている。また、面会時には、面会簿に意見や要望を記載できるような書式を作成して、意見をより多く収集できるように取り組んでいる。毎月「アンジェリカ便り」を個別に作成し、家族にご利用者の心身の状況がわかるように報告している。便りは事業所のケアの方針として掲げている。水分・食事・排便・睡眠について詳細に報告している。	運営推進会議の案内などを活かして、より多くの家族の意見をさらに多く聴取できる取り組みが望ましい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	<p>○運営に関する職員意見の反映                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回全体会議を設け、体制の見直しを行なっている。その際に、職員から事前に意見抽出を書面でもらい、それを基に話し合いを行なっている。</p>	<p>毎月実施される運営改善会議で職員体制や運営体制について話し合いが行われている。全体会議前には、職員アンケートを実施し職員個々の意見が出しやすいように取り組んでいる。運営改善会議のアンケートは、日々行われるケアや業務、体制について細かな項目を明示し、各項目について職員が意見を出すようにしている。会議では、あらかじめ各項目について検討時間を決めて会議が効率的に行えるようにしている。会議に出席できない職員は、会議議事録を見て確認を行うことで職員一人ひとりが出された意見がどのように反映されているか確認できるようになっている。職員の法人内異動は、職員の希望を聞いてから実施するようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新時や賞与考査時に評価シートを記入して定期評価を実施し給与水準や労働条件の見直しを行なっている。有給消化の促進や残業の見直しを法人全体で実施している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や管理者会議への参加を通じてリーダーを育成する事で、各事業所の管理者が現場の指揮を行なえる様に図っている。一方で介護業務チェックシートを活用し on job のツールも活用している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>宝塚市にあるグループホームに見学に行かせて頂き、施設の方針や運営体制、雰囲気などを学び交流する場を設けている。</p>		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族様と打ち合わせを行ない、どのような方でどのような言葉かけが必要であるかを伺い、面接を実施。面接後、対応の留意点を職員に伝え、担当を決めて対応を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時にご家族様のご要望に合わせて見学を進める。また、ご家族様のご要望について傾聴し、否定せずに聞きながら、当施設に入所された際の暮らしのイメージをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望に応じて、当施設での暮らしのイメージをお伝えすると共に、他のサービスを利用した際のイメージを合わせてお伝えし、そのメリット・デメリットについて説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯・調理・外出等で出来る事は共に行いながら、施設での生活に役割を持つ様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望やご不安に対して、こちらからの意見のみで対応せず、共に考えて対応方法を検討する様にしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の面会、外出や外泊を積極的に促している。また、久しぶりにお会いするご家族やご友人に対して、近況を報告しつつ再来所を依頼する様努めている。	職員より来訪者には声かけを行い、継続的に来訪してもらえるように配慮している。あらかじめ家族には、面会を控えた方がよい方を聞き取りして利用者・家族に不利益が生じないように配慮している。利用者・家族より聴取できた馴染みの場所や行きつけの場所・店の把握ができ、希望があれば職員と共に行けるように支援している。	認知症の進行に伴い、自ら自分の意思や希望を表出しにくくなる中で、利用者の馴染みの場所や馴染みの人との交流が継続できるような支援方法を今後も検討し支援していくことが望まれる。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で実施するレクや体操、食事の場面などで、自然と関係性が築ける環境を作っている。	/	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の相談にのり、希望されれば同法人の老健や特養との連携を図り入居支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者毎に担当者を決めている。担当者が中心に、本人・家族とコミュニケーションを図り、希望に沿える様に支援している。また、家族の意向に応える様に努めている。困難な場合は本人の立場になり検討している。	利用者毎に担当職員を決め、担当職員からコミュニケーションをとり、関わりを持つ中で利用者の思いや意向の把握に努めている。日々のケアの中で表出できない思いや意向は、利用者の行動や表情・態度から汲み取るように努めている。汲み取った思いや意向は、週1回実施されるケアカンファレンスの場で利用者の立場にたって意見や考えを出し合い検討を重ね、利用者の思いや意向の把握に取り組んでいる。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族に対し「面接シート」(アセスメントシート)を用い、これまでの生活環境・日常生活の様子・在宅時のサービス内容等の把握に努めている。可能な限り、在宅時のケアマネージャからも情報提供して頂いている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過去の生活歴を基に、自分が得意としている部分(例:料理、洗濯、掃除、裁縫等)を職員と共に行う事により、主体性を持って過ごして頂いている。男性利用者についても同様である。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所された時に希望をお聞きしている。3カ月毎に担当者がモニタリングを行ない、カンファレンスにて、管理者・介護職員・看護師から意見やアイデアを頂き、それらを踏まえてケアプランに反映させている。	面接シートで利用者の状況・情報を把握しアセスメントを実施後、施設サービス計画書を作成している。施設サービス計画書には、ケアの詳細を記載している。モニタリングを3カ月に1回実施、モニタリング表を持ってケアカンファレンスを実施し、評価・計画見直しの有無を話し合い判断し、利用者の現状に即した計画の見直しを実施している。日々関わる中で詳細なケアの変更については担当職員と話し合いを持ち、変更内容を管理日誌に記載し全職員が日誌の確認を行いケアの統一を図っている。	今後利用者の些細な変化を見逃すことなく、予防的な関わりが持てるような取り組みを期待する。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書に基づいた日々のケアの記録を介護記録やケアチェック表へ記入し、カンファレンスやショートミーティング時にケアの見直しの必要性について話す材料としている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体験入居を設け施設の生活に馴染めるか否かを検討して頂いてから入居出来る様に努めている。ご家族様も泊って頂ける様に寝具を用意する事もおこなっている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご友人の訪問を積極的に受け入れ、地域の方々へのご理解とご協力を得ながら、開かれた施設となる様に努めている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関での往診の内容や費用についてを説明した上で、往診を希望されるか、入居前のかかりつけ医を継続されるかをお聞きして選択して頂いている。	入居時に受診状況を把握し、本人・家族等が希望する医療機関に受診できるよう支援している。2週間に1回の協力医療機関(内科・リハビリ・呼吸器)の往診がある。外部の希望する医療機関への受診には、原則家族の通院支援を依頼しているが、緊急時には、職員が臨機応変に受診支援を行っている。往診時には、医師にグループホームの記録を確認してもらい情報提供を行っている。受診時には、週4回勤務している看護師から医療機関へ情報提供を行い適切な医療を受けることができるようにしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の体調について介護記録やケアチェック表を基に日々の体調の管理を行うと共に、体調の変動のある方については、電話や直接連携を取り判断を仰ぐ事ができる。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院の相談員の方々には、施設の案内を行い、連携を図っていきたい意向を示しており関係を築くための基盤作りは行っている。	利用開始時に利用者・家族が指定する入院先があるのか確認している。緊急・急変時の医療機関に搬送・受診する際には、利用者の情報がすぐに持つて出ることができるように書面を用意している。入院中は、家族が支援してもらうようになっているが、入院先に面会に行き、利用者の状態を把握するようにしている。	緊急・急変時が発生したことがないため、今後緊急・急変時にスムーズな対応が行えるように研修を繰り返し実施することが望ましい。
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学や契約の際に重度化になった際の当施設の方針をお話し、納得した上でご入居頂く様に進めている。	契約時より具体的な身体的状況の低下で退所になることを説明し、事業所の方針について利用者・家族に明示し理解と協力を得るように取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を施設で実施しシュミレーションを行い、マニュアルの見直しと共に全体会議での周知を行っている。研修や講義は定期的実施し実践力にいかせるよう環境を整備している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行うと共に、消防所の方々を運営推進会議にご参加頂き、ご意見を頂いている。	事務所に火災発生時の対応方法を写真付きで掲示し、いつでも見て行動ができるようにしている。近隣の避難場所の確認も行い、職員に災害時の避難誘導場所について説明している。避難誘導訓練は年2回の実施を予定している。現在、昼間想定で1回実施しており、次回4月の実施予定である。避難誘導訓練は、消防署へ消防計画を策定し届け出を行い実施している。ベランダはすべてが継続しているわけではないので、火元から一番遠いスペースに避難誘導するとしている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は人生の先輩であるという尊敬の眼差しをつねに持ちながら、日々出来た事に対する称賛や感謝を示す様に心がけている。	研修の中で高齢者の尊厳について学んでいる。利用者と共に生活する中で、感謝の気持ちを言葉に出すようにしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出、レクへの参加等もご希望を聞いてから実施している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体での朝食の時間を設けず、それぞれの利用者の方が起きた時間を目安に食事の提供を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択を行って頂いたり、訪問での理美容を月1回実施出来る環境を整備したりしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材から利用者の方と共に調理し、材料を切る、味付けや盛り付けをする、洗い物をする等、今までの習慣を活かし役割をもった生活をして頂いている。	献立は、食材の搬入業者の作成したものを使用している。利用者と共に下ごしらえ・調理を職員とともに行い、利用者に生活の中での役割を持ってもらえるように支援している。献立の内容によって利用者の嗜好・好みによりメニューの変更も対応している。咀嚼や嚥下に問題のある利用者には、刻みで対応している。食事が進まない場合には、あらかじめ利用者が食べれそうなものを用意し体調の変化をきたさないように配慮している。	調理への参加は、利用者一人ひとりに負担がかからないような配慮が望ましい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量1500kcal以上(全量摂取)、水分量1500cc以上を目標とし、器の大きさや、好み、タイミング等に留意した提供を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による定期健診を実施し必要な方は治療を行い口腔ケア時の留意点について指導を受けている。口腔ケアは毎食後実施しており、利用者の方の状態に合わせた対応を行っている。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表を活用し、排泄のパターンを把握し、必要な方は適宜誘導を行っている。	排泄に関して自立されている方が多く、数名が誘導・見守りを行っている状態である。ケアチェック表で利用者の排泄パターンを把握し誘導・声かけを行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事を偏り無く摂取して頂くと共に、日に2回運動の機会を設けて腸の動きを助長させる取り組みを行っている。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿ったタイミングで入浴して頂ける様に促しを行ない、自身のペースでゆっくりとつかって頂ける様にお声掛けしている。ゆず湯やしょうぶ湯等の季節感を楽しんで頂ける環境を整備している。	午前中10時半から午後3時ぐらいまでの入浴となっている。週2～3回は、入浴してもらえるように支援している。ほとんどの方は、転倒のリスクもあり見守りを実施している。季節を感じる事ができる「ゆず湯」「菖蒲湯」なども実施して入浴が楽しめるように取り組んでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣に沿って無理に眠って頂く事が無い様に支援している。眠れないときは傍に寄りそったり、温かい飲み物を提供したりしている。シーツは定期交換を実施し、日々衛生な環境を整備している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を用いて、ご利用者の方の服薬情報をファイリングすると共に、変更点について記録に残し閲覧出来る様にしている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯・調理・外出等で出来る事は共に行いながら、施設での生活に役割を持てる様に支援している。また、歌や体操・園芸、書道等のレクも積極的に実施している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日一回は外出するという事を施設の目標としており、積極的に外出支援を行っている。外に出た際は、外でおやつを食べる等、楽しんで外出して頂ける様、留意している。必要性をご家族様にもお伝えしご協力頂いている。	宝塚の駅まで歩いて散歩や買い物に出かけることもある。伊丹空港や武庫川のコスモス畑、荒牧バラ公園やしあわせの村など季節や利用者の希望により職員が計画を立て外出を楽しめるようにしている。1日1回は外出ができるように活動予定・実施表で日々の外出状態がわかるようにしている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の状態に応じて施設管理かご本人管理か協議の基に決定している。外出時に気にいったものを購入出来る様に支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を引き継いでお話頂いたり、状態に応じて携帯電話の持ち込みを了承している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから川や山のその日の様子が望める事から季節感を自然と感じる事が出来る。また、時間帯によって照明の明るさを調整しており、時間帯の把握が出来やすい様な環境を整備している。	市街が一望できる高台の近代的な施設である。広いエントランスの落ち着いた色調や装飾が訪れる人に安らぎを感じさせる。共有空間は自然光が差し込み明るく、自然の移り変わりが見られ、室内は整理が行き届き清潔である。共有空間には対面式のキッチンが設置されており、利用者と職員が食事の後片付けをする様子は家庭的な和やかな風景である。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング、エントランスにソファやベンチを置きそれとなく落ち着ける空間を作っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご自宅で使用していたものを持ち込んで頂き易くなるようにシンプルな作りとなっている。ご利用者様のご意向を確認しながら、ご家族様とご相談し環境整備をしている。	落ち着いた色調の広い廊下に面した居室は、廊下で共有空間と離れており、プライバシーが確保できるようになっている。室内は静かで明るく、使い慣れた道具に囲まれ、安心して一人でゆっくりと過せる環境作りが出来ている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりが設置されており、移動や立ち上がり不安定であっても、自身の力を活用して行動できる環境が整備されている。		